

投稿の手引書

2023

2023年11月更新

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 投稿規定 | 1 |
| 原稿作成上の注意 | 4 |
| 1. 用紙 | 4 |
| 2. 文字の設定 | 4 |
| 3. 行およびマージンの設定 | 4 |
| 4. 文の入力方法と書式 | 5 |
| 5. 単位, 略語, 特殊な書体, 他 | 6 |
| 6. 原稿の構成セクション | 7 |
| 1) タイトルページ | |
| 2) 要旨 | |
| 3) 緒言 | |
| 4) 研究材料および方法 | |
| 5) 結果 | |
| 6) 考察 | |
| 7) 謝辞 | |
| 8) 文献 | |
| 9) 後抄録 | |
| 10) 図のタイトル | |
| 11) 図 | |
| 12) 表 | |
| 電子投稿 | 17 |
| 査読後の論文修正 | 20 |
| 最終原稿のデータ提出 | 21 |
| 投稿前のチェックリスト | 22 |
| 投稿の同意書 | 24 |
| 実例 | 25 |
| タイトルページ 要旨 本文 謝辞 文献 後抄録 図タイトル 図 表 | |
| 岩手医学雑誌における論文投稿から出版までの流れ | 36 |
| 校正記号表 | 37 |

投稿規定

1. 投稿について

本誌への投稿は、共著者も含め本会会員に限る。

投稿は岩手医学会ホームページより ScholarOne サイトにアクセスして行う。

連絡先 〒 028-3694 紫波郡矢巾町医大通 1-1-1

岩手医科大学内

岩手医学雑誌編集部

Phone: 019-651-5111 (内線 5057)

F a x : 019-697-5105

直通電話：019-613-6150 (留守電対応)

** 従来通りの郵送等による投稿も可能です。*

2. 倫理的配慮

臨床上の研究を論文として投稿する際は、特に人権を損う恐れのないように十分に配慮する。また、動物実験の場合も、動物の維持・管理・実験操作に伴う疼痛の緩和に配慮する。論文投稿の際は、研究計画が研究実施機関の倫理委員会・動物実験委員会や組換え DNA 実験安全委員会等によって承認された研究であればその旨を記述する。さらに、症例などで本人と明らかに特定できる場合は本人の承諾を得ることとする。

患者の個人情報保護に関しては URL (www.jssoc.or.jp/other/info/privacy.html) を参照すること。

3. 掲載論文の種類

本誌には医学の綜説，研究，症例，速報およびこれらに関係ある記事で他誌に掲載されていないものを載せる。

4. 原稿について

原稿は和文または欧文（英，独，仏）とする。

5. 論文の利益相反について

論文に係わる利益相反は論文中に自己申告で記載すること。

6. 論文の著作権について

本誌に掲載された論文の著作権は岩手医学会にある。

7. 不正行為等に関する罰則について

1) 捏造, 改竄, 盗用および二重投稿などの不正行為が判明した場合には, 審査中であれば論文を却下, 掲載後であれば論文を撤回する旨を紙上に掲載する。

2) 上記に該当した場合, 当該論文の筆頭者および共著者は不正認定後5年間投稿禁止とする(投稿中を含む)。

3) 不正が非常に悪質と判断された場合には, 著者の雇用主や所属団体への告知および調査依頼, あるいは他誌への周知を含めた対応を行う。

8. 同意書について

岩手医学雑誌への投稿にあたり, 論文の投稿・内容について共著者の同意が得られていることを証明するため, 投稿の同意書(自筆署名・捺印)を投稿と同時に提出すること。

9. 英文校正について

著者が英語を母国語としていない場合, 投稿前に英語論文の場合には全論文, 日本語論文の場合には英文抄録を英文校正サービス会社あるいは英語を母国語とする研究者による英文校正を受けることとし, 投稿時に英文校正を受けたことの証明書を提出すること。

10. 印刷費について

印刷費は刷り上がりで研究4頁(学位申請論文は除く), 症例2頁, 速報1頁までは本会が負担する。それを超過する頁と図(写真を含む), 表および別刷の印刷費は著者の負担とする。学位申請論文の著者負担分は原稿受理後請求された見積概算額を前納する。

速報とは別に, 至急印刷を希望する論文の至急掲載料は別途に徴収する。

11. 査読と採否の決定について

受領された論文は英文・統計処理を含め内容に最も相応しい複数の査読者によって審査・査読される。各々の論文に対する査読者の名前は公表しない。

審査・査読後の原稿は査読意見を基に編集委員会からの要請も加えた査読書類とともに著者に返却される。その後著者は期限内に修正した原稿を再度提出する。ただし、どうしても納得しがたい査読意見については、編集委員長宛にその理由を記した書類を提出する。

大幅な修正が要求された場合には、再度査読して採用を決定する。

論文の採否は岩手医学雑誌編集委員会が決定し、掲載が決まれば掲載予定証明書をもって発行の予定期日を通知する。

12. データおよび最終原稿の提出

論文が受理された後、英文校閲と統計処理のチェックを行い、著者へ訂正箇所について連絡をする。連絡を受けた著者は英文と統計の修正を行った後、最終原稿とともに本文（テキスト部分）、表、図（線画・グラフ、写真）のデータを提出する。

原稿作成上の注意

1. 用紙

原稿は A4 版 (212 mm × 297 mm) の白紙とする。

2. 文字の設定

1) 使用する文字サイズは和文，欧文いずれも 12 ポイントとする。

2) 文字フォントは，標準的なフォント (MS 明朝，MS ゴシック) を用いた Microsoft 社の Word (DOC (X)) で作成する。

3) カタカナは全角にする。半角カタカナ文字は文字化けを生じる場合があるので，使用してはいけない。数字は全て半角とする。

4) 音引と全角単柱，ハイフン・半角単柱・マイナス，O (オー) と 0 (ゼロ)，× (かける，ばつ) と X (エックス)，1 (エル) と 1 (いち) 等は明確に区別すること。例えば，0 (ゼロ) の代わりに欧文の O (オー) を用いたり，× (かける，ばつ) の代わりに x (エックス) を用いてはいけない。

5) 和文は現代かなづかい，当用漢字を用い，日本語として慣用されていない外国の人名，地名，術語などは原語のまま書く。

3. 行およびマージンの設定

1) 行間は double spacing (1 行分つつ空けたぐらいの行間を空ける) とし，左右に 2.5 cm，上下 2.5 cm 以上の余白を残すようにする。

下 3 cm の余白中にページ数を入れる。

2) 段落は和文・欧文ともに，必ず**自動改行で左揃え**と設定し，**段落以外でリターンキーを用いての改行はしない**¹⁾。

文字間のあき量を均一化するため，均等割付や両端揃えは用いない。

1) 段落以外で字数を合わせるためにリターンキーを用いて改行すると，データ提出の際，全ての改行がそのままデータ上に存在するため支障をきたすからである。希望であれば和文原稿は 1 ページに 20 文字 × 20 行としても構わないが，その場合には必ず**自動改行で左揃え**と設定すること。

4. 文の入力方法と書式

1) 和文中における文末の [.] や、としての [,] は全角とする。(半角の場合、置替後文中の 0.05 や 1,235 などの . や , が全角となることを防ぐため)

段落の始めは、全角 1 文字分 (本文が欧文の場合は半角 2 文字分) を下げる。和文要旨、欧文 Abstract の場合も同様とする。

2) 欧文 (Abstract を含む) の場合、文は大文字から始めるが、ギリシャ文字から始まる語が文頭にくる場合は、次の後の最初の文字を大文字にする。

[例: *a* -Fetoprotein is one of the embryonic protein ……]

文頭に数字を書かなければいけないときは、数字のつづりを全て書く。

[例: One hour after the inoculation, we observed ……]

3) コンピューターの機種に依存する文字や新たに作った外字は普遍性を欠き、かつデータ提出の際に支障をきたすので使用してはならない。

[例: 丸囲みの数字 ①②③…、ローマ数字²⁾ I, II, III …など]

4) 本文が欧文の場合や abstract では、欧文モード (あるいは半角モード) でカンマやピリオドの後はスペースひとつ空ける。

5) かっこは、() の使用を原則とし、かっこ内にさらにかっこを用いる時はカギかっこを組み合わせ、[()] のように表記する。

6) ページ数はタイトルページ、本文、文献、後抄録、付図説明を含む全ページに、連続してふる (下 3 cm 余白内の下方中央を用いる)。

7) 数字と単位の間、±、= などの数式記号と数字の間には半角スペースを挿入する。(例: 5 ml, 135 mmHg, 3.15 ± 2.15, p < 0.01)

ただし℃、% と数字の間には挿入しない。

2) 文字化けを防ぐため、ローマ数字を表記する場合には英文字半角の I, V, X を組み合わせる。
例: I II III IV V VI VII VIII IX X

5. 単位, 略語, 特殊な書体, 他

1) 量単位, 記号は kg, g, mg, μ g, km, m, cm, mol/l, l, dl, ml, °C, % のように記載する. 原則的に SGI 単位とするが, 慣用的に使われている Eq や M も使用可能とする.

2) **初めから略語を使わない. 初出の時にフルスペリングで記述し, かつこ内で略語を記す.** 以後は略語を使用して良い.

初出が本文前の要旨にある場合, フルススペリングの後, かつこして略語を記していたとしても, その後の本文中で同じ語が初出の場合には, 同様にフルスペリングで記述し, かつこを用いて略語を記す. ただし一般的な略語, 例えば症例報告での臨床検査項目などは定義せずに使用しても良い.

3) 以下のものはイタリック文字で表記する.

- a. 動・植物・微生物のラテン学名
- b. まだ英語として定着していない外国語³⁾
- c. 化学構造を表す cis (trans) o (ortho) p (para) m (meta) n (normal) など
- d. 遺伝子名

4) 数式は + ÷ × を用いて, 簡略にかつ明瞭に示す. 割算を分数のかたちで記述してもよいが, 3段以上にならないようにする. スラッシュ (/) を用いて割算を示すこともできるが, 分母・分子が確実にわかるようにする.

5) 統計値

n : 標本数, p : 確率, r : (標本) 相関係数は小文字で記述する.

[例 : p = 0.01]

mean \pm standard deviation は mean \pm SD と表記する.

mean \pm standard error of mean は mean \pm SEM と表記する.

6) 英単語の表記について

欧文のタイトルおよび文献中のタイトルは文頭のみ大文字とし, 固有名詞以外は全て小文字とする. また, 和文中の英単語については固有名詞以外は全て小文字とする.

3) これは代表的な英語辞書 (Webster など : 図書館に常備) を参照して判断する.

6. 原稿の構成セクション

- 原稿は以下のセクションから構成される.
- 各セクションは改ページにする.
- ページ番号は,
 - 1) タイトルページ ~ 10) 図のタイトル, 付図説明までの各セクションを通してふる.

本文が和文の場合

- 1) タイトルページ
- 2) 要旨
- 3) 緒言
- 4) 研究材料及び方法
- 5) 結果
- 6) 考察
- 7) 謝辞, 利益相反
- 8) 文献
- 9) 後抄録 (本文が和文の場合は英語で, 本文が英文の場合は日本語で,

表題, 著者名, 所属, 抄録を記載する.)

英語のタイトルページと Abstract [日本語の Title page と和文抄録]

- 10) 図のタイトル, 付図説明 [Figure title] [Figure legends]
- 11) 図 [Figures]
- 12) 表 [Tables]

本文が英文の場合

- [Title page]
- [Abstract]
- [Introduction]
- [Materials and Methods]
- [Results]
- [Discussion]
- [Acknowledgements] [COI]
- [References]

1) タイトルページ

- 本文が和文の場合

- (1) **表題** * 表題の中では略語を用いない.
しかし, 一般的な略語は例外的に使用してもよい.

(2) 著者名

- * 10 名以内とする.

著者数において 10 名以上を希望する場合には, 可否についてあらかじめ編集部を確認すること.

(3) 所属機関名

- a. 著者全員の所属が同一であれば、著者名にはなにも付けなくてもよいが、複数の所属機関が必要な場合には著者名のあとに1)、2) と上付き文字を付け、同じ文字を所属機関にも付けて区別をする。

[例] 内丸 学^{1), 2)}

¹⁾ 岩手医科大学医学部, 病理学講座機能病態学分野

²⁾ 岩手医科大学医学部, 整形外科学講座

- b. 所属機関名の正式名称（英訳を含む）については、大学のホームページを参照のこと。

(<http://www.iwate-med.ac.jp>)

- (4) **Corresponding author** 著者名とメールアドレスを英語で記載する。

(5) 略題 (running title)

- a. 所属機関の下段に、本文が和文の場合は 18 文字程度の略題を記す。本文が英文の場合には倍計算の 36 文字程度とする。
- b. 省略した著者名もその下に記載する。
- ・本文が英文の場合にはイニシャルを用いて省略した著者名とする。
 - ・姓のあとに名前のイニシャルを記載するが、2 名までは全て記載し、それ以上は筆頭著者に [, 他] , 英語の場合には [, et al.] をつける。

[例] (日本語の場合)

内丸 学

内丸 学, 岩手修子

内丸 学, 他

(英文の場合)

Uchimaru M

Uchimaru M and Iwate S

Uchimaru M, et al.

2) 要旨 (本文が英文の場合には Abstract) と Key words

- a. 研究、症例などには 要旨 (本文が和文の場合には日本語で、英文の場合には英語で記載する) をつけ、字数は日本語要旨は 400 字以内、英語 Abstract は 200 語以内 とする。

- b. 「～について研究したので…」という導入部から始めずに，研究の目的や背景から述べ，方法と主な所見が判るよう記述し，結論を解りやすく述べる．
- c. [目的]，[結果]などを用いて項目分けはしない．
- d. 要旨のページの下段に1行空けたのち，Key wordsとして本文の言語如何に関わらず英語で5項目以内の名詞あるいは名詞句を記入する．
- e. 研究の対象（例えば，物質名，疾患名など）や方法が判るよう配慮する．
- f. 固有名詞以外は全て小文字とする．

3) 緒言 (Introduction)

4) 研究材料および方法 (Materials and Methods)

- a. 追試が可能なように，用いた試薬・動物・細胞・機器などの入手先は明確に記述する．
- b. 型番製造・販売元の会社名，所在地（都市名，日本を除く国名）を物品名の後に記述する．
[例：…は，高速レーザー顕微鏡（RNM/Ab, Nikon, 東京）で観察した.]
- c. 倫理委員会で承認を得た場合にはその番号もかっこして記載すること．

岩手医科大学医学部倫理委員会の正式な英文記載は下記の通りである。
Ethics Committee of Iwate Medical University School of Medicine

5) 結果 (Results)

6) 考察 (Discussion)

- a. 3)～6)のセクションには，それぞれローマ数字のI, II, III, IVの番号をふる（p. 5, フッタ2）参照）．更に各セクション内に細項

目を設ける場合には, 1. → 1) → (1) の順に階層化した番号をふって分類する.

- b. 症例報告などでは 4) と 5) を一緒にして, [症例] として記述する.
- c. 図や表の挿入箇所は, 原稿の右側余白に赤字で記す.
- d. 文献を本文中で引用する場合は, 片かっこの数字で表す.
 - ・ 2つ以上の文献を列挙する場合には発行年の順.
 - ・ 同一年の場合には, first author のアルファベット順.
 - ・ 文献と文献の間はコンマでくぎり, それが通し番号の場合には - (半角ハイフン) を用いて記載し, かっこは最後のみにつける.
 - ・ 文字は上付き文字にする.

[例: …… を使った結果は, ○○を示唆している^{1,3, 5)}.]

7) 謝辞ならびに利益相反 (Acknowledgments) (COI)

- a. 論文指導や専門的な技術指導を受けた場合に, 必要に応じて謝辞を入れる.
- b. 謝辞を呈する人と論文の共著者が重複しないようにする.
- c. 団体・基金から研究費の提供を受けた場合 (例えば, 日本学術振興会科学研究費) はその事を記す.
- d. 利益相反について必ず記載すること.
利益相反がないと記載する場合には下記の通りとする.

和文の場合

利益相反: 著者らには開示すべき利益相反はない.

英文の場合

Conflict of interest: The authors have no conflict of interest to declare.

8) 文献 (References)

- a. 文献は本文に引用されるもののみとし, 引用番号は著者名の引用順とする.

- b. 引用番号は片かっこ 1) から順につける。
引用番号の行頭に比べて、本文の折り返しが下がるような『ぶらさげ段落書式』にする⁴⁾。
- c. 欧文文献の著者名は、姓→名のイニシャルの順に書く。
姓名の間にカンマは不要であるが、半角スペースを1文字分だけ空ける。first name と middle name のイニシャルの間には、スペースやピリオドを設けず、続けて記す。
- d. 文献欄の著者名は共著者3名まで記載し、[～他] [～ et al.] とする。
著者名が2名の場合で、和文の場合には[, (コンマ)]で、欧文の場合には and で著者名をつなぐ。
- e. 英文のタイトルは**文頭のみ大文字で固有名詞以外は全て小文字**とする。
- f. 誌名の省略は、和書は医学中央雑誌収載誌目録、洋書は Index Medicus, List of serial title word abbreviation などに準拠する⁵⁾。
・誌名が1語の場合には省略形を用いずにそのまま用いる。
・誌名においては省略した語にピリオドを付けない。
- g. ページ数は省略せずに通しページで記入する。単行本の場合には通しページは pp. を用いて記入する。
- h. 年号のあとにはピリオドをつける。

文献例

[例：雑誌論文を引用する場合]

(1) 単著の場合

- 1) Wilkins RH: Attempts at … an update. Neurosurgery 18, 808-825, 1986.

family name (space) first name と middle name のイニシャルの順: (space)
題名. 雑誌名 (space) volume, (space) 最初と最後のページ, (space) 発行年.

4) word の場合、書式 (O) →段落 (P) →最初の行→ぶらさげの操作を行う。

5) これらは岩手医大図書館に常備してあるので、投稿前に最新版で確認すること。

- 2) 水口 雅：小児急性壊死性脳症. 神経進歩 43, 68-74, 1999.

姓（姓または名前が1字の場合には全角スペースを挿入）名：

(2) **著者2名**の場合

- 3) Somlyo AP and Somlyo AV: Signal transduction by … myosin II.
J Physiol 522, 177-185, 2000.

first author（姓→名の順）と second author（姓→名の順）を and でつなく.

- 4) 中下誠郎, 松尾厚子：インフルエンザ脳炎・脳症に対する
脳低温療法. 小児内科 31, 148-156, 2000.

和文の場合は, 連名にするだけでよい.

(3) **著者3名**の場合

- 5) Collins EM, Walsh MP and Morgan KG: Contraction of … .
Am J Physiol 262, 754-762, 1992.

first author（姓→名の順）と second author（姓→名の順）を連名にして
third author（姓→名の順）を and でつなく.

(4) **著者4名以上**の場合

- 6) Sharma R, Sharma M, Vamos S, et al.: Both subtype 1 and
2 receptors …… J Lab Clin Med 138, 40-49, 2001.

first author から3名までを記した後, et al. : とする.

- 7) 本郷 哲, 安部正人, 根元義章, 他：複数のセンサ….
信学技法 EA, 43-49, 1994.

first author から3名までを記した後, 他 : とする.

(5) **組織や団体**が著者の場合

- 8) The Committee on Enzymes of the Scandinavian Society for Clinical Chemistry and Clinical Physiology: Recommended method for Scand J Clin Lab Invest 36, 119-125, 1976.

[例：単行本を引用する場合]

(1) **著者と編者が同一**の場合

- 9) Creasy RK and Pasnik K: Maternal-fetal medicine ... and practice, 2nd ed, pp. 65-70, Saunders, Philadelphia, 1989.

著者名:論文題名, 版, ページ数(複数ページの場合は pp. で始めること), 出版社, 出版社所在地, 出版年 (西暦).

- 10) 鈴木泰三, 星 猛: 臨床生理上巻, 2 版, p. 85, 南山堂, 東京, 1979.

(2) **著者と編者が異なる**場合

- 11) Bosch J, Gines P, Arroyo V, et al.: Hepatic and In "The kidney in liver disease", ed by Epstein M, pp. 286-308, Williams and Wilkins, Baltimore, 1988.

著者名:論文題名, In "本の題名", 編者 (編者複数の場合は eds by として, first author のみを記し, あとは, et al とする), ページ数 (複数ページの場合は pp. で始めること), 出版社, 出版社所在地, 出版年 (西暦).

- 12) 星野 孝: 免疫細胞の分類と疾患との関係. 解説臨床免疫学 (広瀬俊一編), p. 44, 科学評論社, 東京, 1987.

(3) **本全体**を引用する場合

- 13) Comvay EJ: Microdiffusion analysis and volumetric error, 3rd ed, Crosby Lochwood, London, 1950.

著者名：本の題名（単語の最初の文字は大文字とする）、版、出版社、出版社所在地、出版年（西暦）.

[例：その他の場合]

(1) 入手先としてウェブサイトの名称と URL を記載

14) 文部科学省：医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—平成 22 年度改訂版. 2011.
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/06/03/1304433_1.pdf

(2) doi の記載方法

15) Takahashi K, Funata N, Ikuta F, et al.: Neuronal apoptosis and inflammatory responses in the entrnal nervous system of a rabbit treated with Shiga toxin-2. J Neuroinflamm 5, <https://doi.org/10.1186/1742-2094-5-11>, 2008.

9) 後抄録

表題, 著者名, 所属, 要旨を本文が和文の場合には英文で, 本文が英文の場合には和文で記載する.

字数は和文要旨は 400 字以内, 英語 Abstract は 200 語以内 とする.

10) 図のタイトル, 付図説明 (Figure title) (Figure legends)

- a. 図のタイトル (付図説明を含む) は和文か英文かどちらかに統一する.
- b. 1 枚しか図がない場合にもタイトルは 図 1. … とする.

以上, 1) タイトルページから本文 [2) 要旨 ~ 7) 謝辞], 8) 文献, 9) 後抄録, 10) 図のタイトルまでは通し番号でページ数を入れる.

11) 図 (Figures) 写真, 線画共通に行う

- a. 図版は本文原稿に組み込まず, 別にする.
- b. 一つの図の中にいくつかの図を載せる場合は各々に A, B…をつける.
- c. 図版サイズは, 最大で横幅 13.5 cm × 縦の長さ 19.5 cm である.
ただし, 図のタイトルの他に付図説明を図の下に入れたレイアウトで印刷を希望する場合には, その分を差し引いて図版の縦の長さを調節する.
- d. 白黒で印刷を希望する場合には, 白黒の図とする.

[写真の場合]

11) 上記図の a,b,c の後に

- d. 写真に挿入する文字はフォントと大きさを統一する.
- e. 顕微鏡写真では, スケールバーを入れるか, 印刷時の最終倍率を付図説明に加える.
- f. 写真は何枚かを組み合わせて 1 ページになるようにしても良い.
- g. 白黒写真で掲載希望の場合は, 必ず写真は白黒写真とする.
 - ・カラー写真による代用は認めない.
 - ・カラー印刷を希望する場合には, カラー写真を提出する.

[線画・グラフの場合]

11) 上記図の a,b の後に

- c. 線画・グラフは縮小するので, 印刷希望サイズよりも大きめに作成する.
- d. 縮小倍率を考慮して, 原図の線は鮮明で, かつ単純な線にする.
- e. グラフの横軸, 縦軸の説明字句を図中に記す.

12) 表 (Tables)

- a. 表は, 本文原稿の中に組込まず, 別にする.
- b. 図のタイトルや付図説明と同様に, 和文か英文かどちらかの構成で統一する.
(図を英文で構成した場合には, 表も同様に英文での構成とする)

- c. 斜めの罫線は用いない。
表（表下の説明を除く）の最上線と最下線には横罫を必ず入れる。
見やすさを考慮し、縦罫・横罫はなるべく最小限に留める。
- d. 1枚しか表がない場合にも、タイトルは 表1. …として作成する。
- e. 表中の記号・略字の説明、数値の統計分析結果を表下に記載する。

電子投稿

論文の投稿は、電子投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」（以下「ScholarOne」という）で行う。

1. 論文は、以下に示すファイルに分けて、ScholarOne サイトでアップロードする。

最終ステップの PDF で投稿前に書式、文字化け、画像の鮮明度などを必ず確認する。

1) 原稿作成の際には「原稿作成上の注意」（投稿の手引き書 pp. 4-16）を熟読の上、論文を完成させること。

2) 表：

(1) Microsoft 社の Excel, XLS (X) または Word, DOC (X) で作成する。

(2) JPEG 保存した表（画像扱い）や Word に貼りつけた表（文字にされないもの）は使用できないので注意すること。

(3) パワーポイントで作成した場合には、パワーポイントデータも添付する。

3) 図：

(1) DOC (X), XLS (X), PPT (X), JPG, TIFF, GIF, AI, EPS および PSD フォーマットなどのオリジナルファイルをアップロードする。

(2) 線画、グラフなどは illustrator で書いてあるものが望ましい。

(3) 明瞭に判別できる解像度（300 dpi）とし、鮮明な図を用いること。

(4) パワーポイントで作成した場合にはパワーポイントデータも添付する。

(5) 図のデータはカラー希望以外のものは必ず白黒のものを使用する。

4) 投稿の同意書：

PDF とする。

5) 英文校閲証明書：

PDF とする。

2. ファイル名：

アップロードファイルは、次のように半角英数字を用いて名前を付ける
(拡張子は例示)

論文原稿：例) honbun.doc

図：例) Fig.1.jpg Fig.2.jpg Fig.3.jpg

表：例) Table1.xls Table2.xls Table3.xls

3. ファイルサイズ：

アップロードするファイルサイズは、すべてのファイルの合計で
20,000 KB までとする。

(論文は、以下に示すファイルに分けて、ScholarOne サイトでアップロードする)

最終ステップの PDF で投稿前に書式、文字化け、画像の鮮明度などを
必ず確認する。

投稿は、岩手医学会ホームページから ScholarOne サイトにアクセスして行う (オンライン投稿マニュアルを必ず参照すること)。

オンラインマニュアルは ScholarOne サイトの岩手医学会・上段の各種書類からダウンロードする。

投稿の主な流れは以下の通りとなる。

1. 論文原稿 (本文、文献、図のタイトル、付図説明)、図、表について、それぞれファイルを作成する。ファイル名は必ず半角英数字で付ける。

(例：Honbun.doc, Table 1.xls, Table 2.xls, Fig.1.jpg, Fig.2.jpg, doisho.pdf, etc)

2. 論文原稿 (Honbun.doc) は、下記のように番号ごと [(1) ~ (5)] に改ページを行い作成する (1つのファイルで作成する)。

(1) 表紙（論文種別，題名，著者名，所属，ランニングタイトル，Corresponding author など）

(2) 抄録，Key words

- ・和文の論文の場合には和文抄録，英文の場合は英文抄録となる．
- ・和文抄録の場合でも Key words は英語で記載する．

(3) 本文（緒言～考察，謝辞，利益相反）

(4) 文献

(5) 図のタイトル，付図説明

3. ScholarOne サイトにアクセスし，アカウントを作成する（初回投稿時のみ）．

その後，連絡先・メールアドレスなどに変更が生じた場合には，各自でアカウント情報の修正を行うこと．

4. 用意したファイル（論文原稿，図，表，投稿の同意書，英文校閲証明書）をアップロードする．

5. アップロードしたファイルは ScholarOne サイトで送信前に表示される PDF 形式で確認する．その際，書式，文字化け，画像の鮮明度，アップロードしたファイル（誓約書以外）が全て PDF 形式に正しく変換されているかなどを必ず確認する．

6. 最後に「送信」ボタンをクリックすると投稿完了となる．

7. 査読終了後の修正後論文，英文統計校閲後の修正後論文の投稿も同様となる．

8. スキャナーなどが手元になく，投稿の同意書などをパソコンに取り込めない場合には，投稿から 1 週間以内に別途 FAX にて事務局（FAX 番号：019-697-5105）宛に送付する．

その際には，論文の題名および論文 ID を明記すること．

査読後の論文修正

1. 修正要求に対して

審査・査読の結果，査読者から修正要求があった場合は，修正して書き直すことが求められる。大学院生の学位申請論文の場合は，論文提出日が定められているので，期限内に手直しはおこなうこと。

2. 修正論文の様式

1) 初回の投稿論文に修正・追加した部分については，**色分けするかアンダーラインをつける**などの工夫をして，修正箇所がひとめで判るようにする。

2) 査読意見に対するコメントを作成する。

修正要求が複数ある場合には，各々に対してどのように対処したかを記す。

3) もし，査読者の修正要求に対して反論がある場合は，参考となるデータや文献等を添えて，編集委員長宛に意見書を提出する。

3. 論文投稿（電子投稿）と同様に修正原稿と修正箇所を示した論文に加え，査読意見に対してのコメントファイルがある場合にはそれらをアップロードする。

* オンライン投稿マニュアルを参照すること

最終原稿のデータ提出

論文がアクセプトされた後、英文校閲および統計処理についてのチェックを行い修正箇所について著者に連絡をする。

連絡を受けた著者は、英文と統計の修正を行った上、最終原稿とともに上付、下付などをマークした論文をアップロードする。

* オンライン投稿マニュアルを参照すること

英文・統計の修正が大幅な場合には、再度校閲を行う場合もある。

[マーク例] 上付文字は赤色，下付文字は緑色，イタリック体は青色，などと余白に記入したのち，文中に色分けしてマークする。

培養では *Pseudomonas aeruginosa* が³検出され
た¹⁻³⁾。 ……PCO₂、PO₂ …… また血小板数 76
(× 10³/ μ l) ……TNF- α の改善もみられた⁸⁾。 図 3

注意：最終原稿は手引書を再度参照し、図の挿入箇所を余白に赤で記入するなどすべて投稿時と同様に作成すること。

投稿前のチェックリスト

投稿前には必ずチェックして下さい。

1. 本文（タイトル～文献，後抄録）について

- 論文は原稿作成上の注意に従って作成した。（文字サイズに注意）
- タイトルページには corresponding author を記載した。
- タイトルページを1ページとして文献，後抄録，付図説明を含む全ページに通し番号をふった。
- 本文中略語は初出時にことわった。
- 欧文のタイトル・文献中のタイトルについては文頭のみ大文字とし，固有名詞以外は全て小文字とした。
- 英語論文の場合には全論文，日本語論文の場合には英文抄録について投稿前に英文校正を受け，その証明書を得た。
- 和文中の英単語は固有名詞以外は全て小文字とした。
- 本文中薬品名は一般名を使用し，必要に応じて商品名を併記した。
- 本文中に引用した文献は，もれなくリストアップした。
- 本文末に謝辞や研究費提供などについて記載した。
- 本文末に利益相反について記載した。
- 文献の引用番号は，本文に記載した順につけた。
- 文献リストに載せたものは，全て本文で引用した。
- 文献リストに記載した人名，初頁－終頁，年号などを再確認した。
- 文献リストの雑誌名は医中誌や Index Medicus 等に準拠して略した。

2. 図について

- カラーではなく白黒での印刷を希望する場合には白黒の図とした。
- 写真の場合には解像度 300 dpi 程度の明瞭なものとした。
- 図のタイトルは図のタイトルとして作成した。

タイトル以外に、付図説明がある場合には、簡潔な文章とし、図のタイトルの下に加えた。

- 図の横軸，縦軸の説明字句は図中に記載した。
- 顕微鏡写真は，拡大倍率がわかるようになっている。
- 図中の文字，数字，記号の大きさ，用いている線は，縮小しても明瞭である。
- 図の挿入箇所を本文右側余白に赤で記入した。

3. 表について

- 表題は表の上部に表 1. ○○として記載し，表中の記号・略字の説明，数値の統計分析結果を表下に記載した。
- 表の挿入箇所を本文右側余白に赤で記入した。

4. その他

- 著者全員の自筆署名・捺印のある投稿の同意書を用意した。
- 著者が英語を母国語としていない場合，英語論文の場合には全論文，日本語論文の場合には英文抄録を英文校正サービス会社あるいは英語を母国語とする研究者による英文校正を受け，証明書を得た。
- 英文，和文の著者名が一致しているかを確認した。
- 共著者が岩手医学会に未入会の場合は，入会について確認し承諾を得た。
- 学位申請論文の場合，責任者である所属長の校閲を経て論文投稿の許可を得た。
- 症例の場合，本人と特定できる場合には文書による承諾を得た。

投稿の同意書

下記論文を全共著者の同意を得て岩手医学雑誌に投稿いたします。

分類 綜説 原著 症例 その他 ()

題名

年 月 日

(自筆で記入)

筆頭著者 _____ (印)

共著者 _____ (印)

共著者 _____ (印)

共著者 _____ (印)

共著者 _____ (印)

共著者 _____ (印)

共著者 _____ (印)

実例

タイトルページ

生体内分子間相互作用解析装置を用いた
Matrix metalloproteinase の
エラスターゼ活性の定量的評価法の開発

内丸 学, 岩手修子

岩手医科大学医学部, 病理学講座〇〇分野

Corresponding author: Manabu Uchimaru
uchimana@gmail.com

Running title : エラスチン CBSC assay の開発
内丸 学, 岩手修子

1

論文が日本語・英語に関わらず英語で記載すること。

所属機関名は正式名称を記入する。

下段にランニングタイトルとして略題と著者名を記入する。

ページはタイトルページから本文、文献、後抄録、付図説明まで通しページで入れる。下段余白 3 cm のなかで、中央に入れる。

要 旨

パラグラフの
初めは1字分空
ける。

要旨

イオンチャネルは細胞膜蛋白であり、その分子構造、イオン選択性、イオン電流の大きさ、調節機序などによって多くの種類に分類されるが、基本的機能はいずれもチャネルの開閉によるイオン電流の制御である。しかしながら、チャネルの開閉パターンは一樣ではなく、種々の解析法により、調節因子等でそのパターンが規定されることが分かってきた。本稿では、 Ca^{2+} によって調節される Ca^{2+} 依存性 K^+ チャネルの開閉機構の解析法に関する基本概念を紹介する。

Key words : ion channel, open probability, gating model,
intracellular Ca^{2+}

論文の言語に
かかわらず英語
で5項目以内の
Key wordsをつ
ける。

和文要旨は400字以内とする。

論文が英文の場合には英文 Abstract (200語以内) となる。

本文

I, II, ...などは英文モードのIやVの組み合わせでローマ数字を作成し、項目を分ける。

文献番号は引用順とし、右上につける。

通し番号の場合は1-4), 2個の場合は1, 2) とし、閉じかっこはひとつとする。

I. 緒言

ヒトの染色体末端構造テロメアはTTAGGGの6塩基を1単位とする反復配列からなり、染色体の安定性の保持に重要な役割を担っている¹⁾。テロメア長は体細胞においては細胞分裂毎に短くなり、一定の分裂回数後、テロメア長が5 kb以下になった時、細胞は分裂を停止し、アポトーシスに陥る^{2, 3)}。一方、生殖細胞やがん細胞では失われたテロメアを合成するテロメラーゼが発現し、テロメア長を維持する機構が働いている¹⁻⁴⁾。テロメラーゼ活性の有無と癌細胞の不死化との間には密接な関係があるものの、がんの生物学的特性(増殖・浸潤/転移・アポトーシス)とテロメラーゼ活性との間には関連がないとする報告が一般的である。しかし、これまでのテロメラーゼ活性の評価法はtelomeric repeat amplification protocol (TRAP) 法^{3, 5)}と呼ばれるPCRを応用した測定法であり、テロメラーゼ活性が正確に評価されていない可

3

数字はすべて半角とする。

和文中の、と、はすべて全角とする。

本文

パラグラフの初めは和文モード（全角）で1文字分あける。

2桁の数字は欧文モード（半角）で2文字分とする。

さらに、0.1 mg/mlの濃度で反応時間に対するテロメアの伸長速度を検討したところ、時間依存性に伸長が確認され（図5）、テロメアが一定の速度で伸長していることが確認された（図6, 7）。

3. ヒト培養細胞におけるテロメアの伸長速度の検討

TRE assay において1,500 RUのTS-5B プライマーが全て一塩基伸長すると、計算上34 RU増加する。21個の培養細胞株について1, 5, 10, 30分のe-valueを測定し、テロメア配列の伸長速度を算出した（図7, 表1）。いずれの細胞株においてもテロメアの伸長は一定の速度で生じており、培養細胞間で伸長速度に差異がみられた。テロメアの伸長速度は乳癌培養細胞株で特に高い傾向にあった。また、テロメア配列の伸長がヒト胎児線維芽細胞でわずかではあるが確認された。

図表の挿入箇所は赤で右側余白に記入する。

例えば、図6と図7を並べたい場合には、図6, 7とする。

謝辞 (必要な場合), 利益相反

稿を終えるに当たり, 本研究の機会をお与えくださり, 御指導・御校閲を賜りました岩手医科大学医学部〇〇講座, 〇〇〇〇教授に厚く御礼申し上げます.

また, フローサイトメトリーの御指導と御協力を賜りました〇〇大学医学部〇〇〇〇講座, 〇〇〇〇教授, ポリメラーゼ連鎖反応検査に御協力頂きました本学医学部〇〇〇〇講座〇〇〇〇〇〇教授に心から御礼申し上げます.

利益相反: 著者らには開示すべき利益相反はない.

34

必要な場合には, 研究を完成させるための協力をしてくれた方々への謝辞を記述する.

論文共著者への謝辞を述べている場合もあるので注意する.

必ずしも謝辞はなくともよい.

和文の場合例

英文の場合には Conflict of interest: The authors have no conflict of interest to declare. とする.

文 献

雑誌名の後は半角で2スペースあける。

単行本の場合には pp. を用いて通しページを表す。引用が1ページの場合には p. となる。

ページは334-40などと省略せず、必ず通しページで記載する。

文 献

- 1) King BF: Intravascular contrast media and premedication. In "Radiology life support", ed by Bush WH, pp. 1-21, Arnold publishers, London, 1999.
- 2) Levin ER, Gardner DG and Samson WK: Natriuretic peptides. N Eng J Med 339, 321-328, 1998.
- 3) Mukoyama M, Nakao K, Saito Y, et al.: Increased human brain natriuretic peptide in congestive heart failure. N Eng J Med 323, 757-758, 1990.
- 4) Yoshimura M, Yasue H, Okumura K, et al.: Different secretion patterns of atrial natriuretic peptide and brain natriuretic peptide in patients with congestive heart failure. Circulation 87, 464-469, 1993.
- 5) Arakawa N, Nakamura M, Aoki H, et al.: Relationship between plasma level of brain natriuretic peptide and myo-cardial infarct size. Cardiology 85, 334-340, 1994.
- 6) Sudoh T, Kangawa K, Minamino N, et al.: A new natriuretic peptide in porcine brain. Nature 332, 78-81, 1988.

著者が3名の場合には and でつなく。

著者名は3名まで記入し、それ以外は et al. とする。et al. の前に and は必要ない。

コンマの後は、半角で1スペースあける。

35

ページはタイトルページから本文、文献、後抄録、付図説明まで通しページで入れる。下段余白4 cmのなかで、中央に入れる。

後抄録

Development of a quantitative method for
assessing the elastolytic activity of Matrix
metalloproteinases
using a biomolecular interaction analyzer

Manabu Uchimaru and Shuko Iwate

Division of ○○○, Department of ○○, School of Medicine,
Iwate Medical University, Yahaba, Japan

36

所属機関名は正式
名称を記入する。

タイトルペー
ジから本文、
後抄録、付図
説明まで通し
ページを入れ
る。

論文が英文の場合：日本語のタイトルページとなる。

後抄録

パラグラフの初めは半角2～3字分（和文の場合には全角1字分）空ける。

英文の場合、ピリオドの後は半角で1スペース空ける。

Abstract

A new method named the catalytic biosensor chip assay (CBSC assay) was developed for the real-time quantitative assessment of elastin degradation using surface plasmon resonance. This assay was used to evaluate the elastolytic activity of matrix metalloproteinases (MMP-2, -7, -9, -12) on aortic elastin. The elastolytic activity of MMP-12 derived specifically from macrophages was 5-10 times higher than that of any other MMP, which suggests that macrophages infiltrating the wall of an aortic aneurysm play an important role in aneurysm development. The CBSC assay is rapid, simple and sensitive, and may be useful for the screening of MMP-inhibitory drugs.

37

英文の場合、コンマの後は半角で1スペース空ける。

タイトルページから本文、後抄録、付図説明まで通しページを入れる。

英文 Abstract は 200 語以内とする。
論文が英文の場合：日本語要旨（400 字以内）となる。

図のタイトル, 付図説明

Fig. 1 や 2 の後は
、とか:でなく、
.(ピリオド)を
用いる。
日本語の場合も同
様とする。

図のタイトル

Fig. 1. A simplified model for open and closed states of an ion channel.

A: Open and closed states of an ion channel.

B: Two types of the open and closed duration: (a) the short duration, and (b) the long duration.

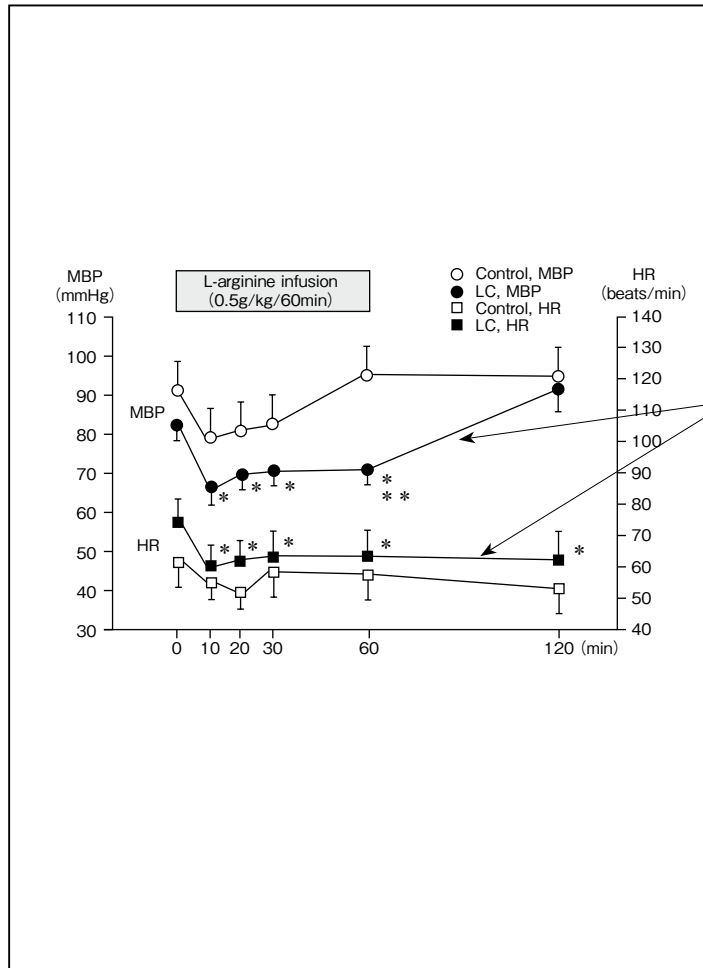
Fig. 2. Effect of intracellular Ca^{2+} ($[\text{Ca}^{2+}]_i$) on a native Ca^{2+} -activated K^+ channel.

A: Actual current traces of changes in channel activity in response to raising $[\text{Ca}^{2+}]_i$ from 10^{-5}M (a) to 10^{-4}M (b).

B: Open (a) and closed (b) dwell-time histograms obtained from the long trace represented in A.

タイトルページ
から文献, 後抄
録, 図タイトル
まで通しページ
を入れる。

図



縮小しても解りやすい線を用い、あまり細かい線は用いない。

表

斜めの罫は用いない。

表1. 各種 MMPs のエラスチン分解量*

| MMPs | 濃度 (μ M/ml) | エラスチン分解量 (RU) | | |
|--------|---------------------|-----------------|-----------------|------------|
| | | κ -エラスチン | α -エラスチン | ヒト大動脈エラスチン |
| MMP-2 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| | 10 | 2 | 3 | 18 |
| MMP-7 | 1 | 11 | 12 | 21 |
| | 10 | 156 | 131 | 212 |
| MMP-9 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| | 10 | 8 | 6 | 21 |
| MMP-12 | 0.25 | 172 | 156 | 225 |
| | 1 | 450 | 443 | 713 |

*固定化量 5,000 RU, 反応時間 600 秒

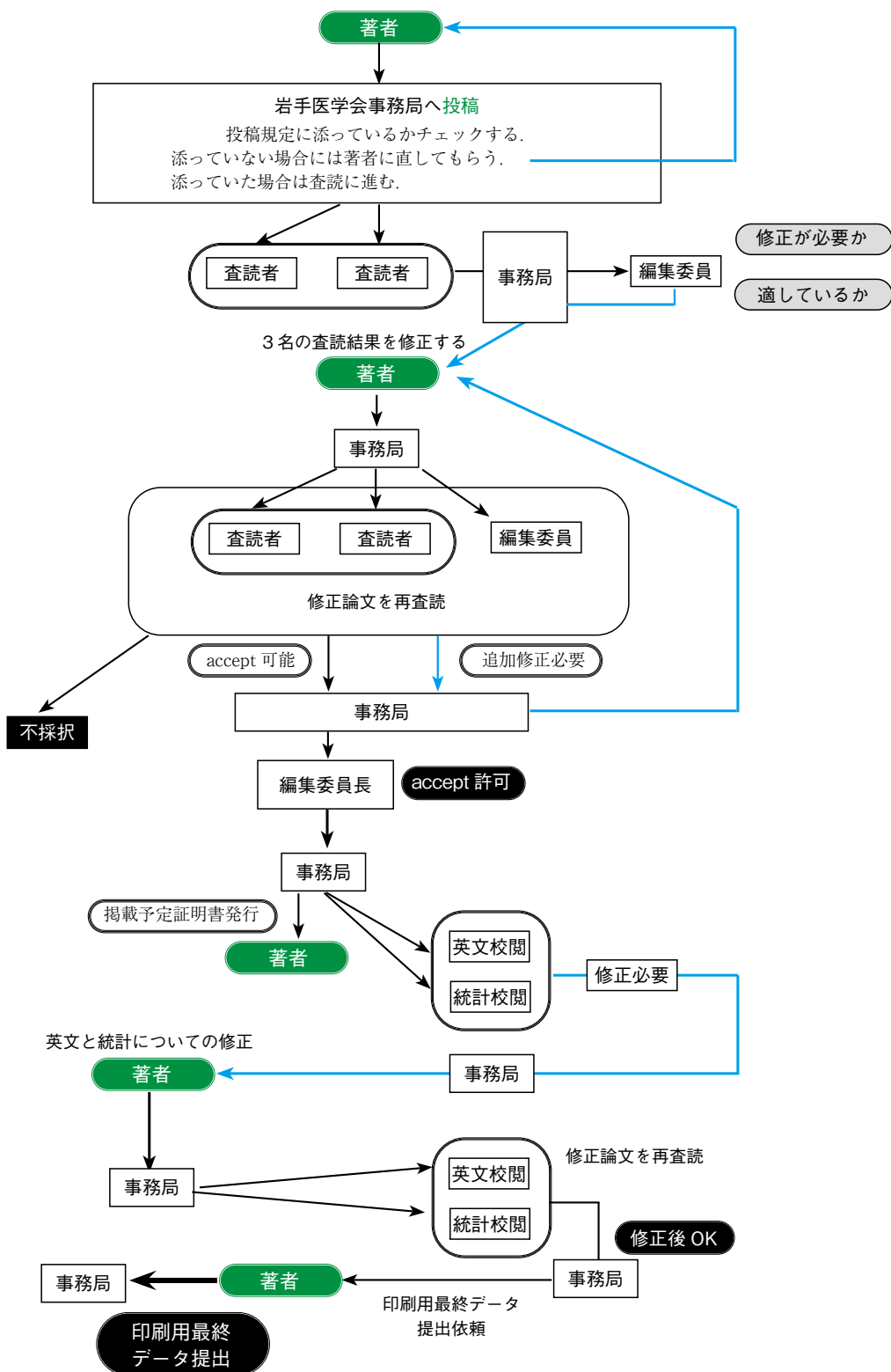
表のタイトルは表の上に記載する。付図説明には記載しない。

最上線
最下線は必ず入れる。

表中の説明は最下線の下に入れる。

岩手医学雑誌における論文投稿から出版までの流れ

(著者の作業は緑色で示す)



校正記号

(この記号は全国共通)

| 校正の仕方 | 意味 | 正しい語句 | 校正の仕方 | 意味 | 正しい語句 |
|--|-----------------|-----------------------------------|---|---------|----------------------------------|
| 文字 ^字 | 誤字を正す | 文字 | ストップ ^小 | 小文字 | ストップ |
| いろは ^は に | 脱字を入れる | いろはに | は ^大 っかり | 大文字 | は ^大 っかり |
| いろは ^{トル} はに | 取り去る | いろはに | した ³ ✓. | 上付文字 | した ³ ✓. |
| つ ^め ^め ^よ | 字の間を詰める | つめよ | した ¹⁻³ ^{上ツキ} | 上付文字 | した ¹⁻³ ^{上ツキ} |
| あ ^っ ！と叫ぶ | 字の間を開ける | あ ^っ ！ と叫ぶ | CO ² \ | 下付文字 | CO ² |
| いろは ^{イキ} はに | 消し誤り | いろはに | GI ⁵⁰ ^{下ツキ} | 下付文字 | GI ⁵⁰ |
| 1 ⁶ 2 ⁶ 3 | 正しい姿に直す | 1 2 3 | 1 ² 3 ^{みんなちよう} | 明朝とする | 1 2 3 |
| A ^{トルアキ} · B · C | 取り去り そのまま開ける | A B C | 1 ^G 2 3 | ゴジックとする | 1 ^G 2 3 |
| A ^{トルツメ} · B · C | 取り去り そのまま詰める | ABC | いろはにほへと < ちりぬるをわか | 行間詰める | いろはにほへと ちりぬるをわか |
| した [。] その後 | 行を続ける | した。その後 | > いろはにほへと ちりぬるをわか | 行間開ける | いろはにほへと ちりぬるをわか |
| した。その後 | 改行する | した。 その後 | ちりぬるをわか < いろはにほへと | 行を替える | いろはにほへと ちりぬるをわか |
| その後 | 一字分下げる | その後 | 字の誤りが多い場合：例えば「nM」の字であるべきところに「μM」が組み込んであり、それが多数である場合にはその箇所△に印を付し、欄外に△=nM というようにする。多種の場合△・×等区別する。 | | |
| うしろ ^{まえと} | 前後を替えよ | まえとうしろ | 責了 訂正指定箇所が直ったら印刷してよい | | |
| あ ^っ た。しかし [、] | 替える | あ ^っ た。しかし [、] | | | |
| <u>望</u> ^{ソロエル} <u>まし</u> | 行をそろえる | 望ましい | | | |

1. 訂正文字が多い時や多くの文字を補足したい時には、これらを欄外余白に記入し赤線で囲んだ後、修正箇所から赤線を引く。
2. 多くの文字の削除や抹消する場合は、その部分を赤線で抹消する。多くの行の場合はその前面を大きくXでもよい。但し区分（どこからどこまで）をハッキリさせること。
3. 欧文の場合 NewYork Lon don など和文と同様とする。活字は小さい場合、あるいは「語」中の誤りが複雑な場合には欄外に正しいつづりを書き直し、修正箇所から赤線を引く。その場合、はっきり楷書体とすること。特に n, u, e, c は注意する。